

令和 4 年度

事業所名 : グループホームよろこび B棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルデーテ		
事業所名	グループホームよろこび B棟		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和4年10月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の広報誌や地元の職員、家族を通じて、多くの地域の皆様に「グループホームよろこび」を知っていただけていると職員一同とても嬉しく感謝しています。
 防災に関しては、町の危機管理監のご指導ご協力のもと、防災士の資格取得に力を入れ、現在は3人が防災士として施設の防災担当を中心に、火災訓練等に取り組んでいます。
 令和4年春に開設5年目を迎え、ますます地域の方々やご家族様が気軽に足を運んでいただけるような「家庭的な雰囲気」であふれている「グループホームよろこび」を目指していきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲を山々に囲まれた小さな集落の高台に位置し、町からは災害時の避難場所に指定されている。防災士の資格を持った3名の職員が中心となり、避難訓練等の災害対策に取り組んでいる。コロナ禍にあって外出しての地域の方々との交流は難しいところではあるが、A棟、B棟合わせて18名の利用者が入居されて、お互いに交流しながら毎日の生活を楽しんでいる。利用者は地域の方々や家族から野菜や果物、お菓子等を差し入れていただくことも多く、季節の食材を使った食事を楽しんでいる。また、近隣からの利用者が多いため、定期発行の広報誌を地域に配布している。家族には、広報誌の他に個々の写真を送付する取り組みも喜ばれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念につなげる努力はしているが達成できていない事がある。	開設時に話し合っで決めた理念「家庭的な雰囲気大切に、・・・」と「家族や地域との結びつきを大切に、・・・」は、事業所内に掲示し合同会議開催時には職員で共有するよう努めている。その人らしい毎日を笑顔で暮らせるよう、利用者の意向を確認しながら支援に取り組み理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染対策の為、今は難しい。	コロナ禍で地域との交流に制約があるものの、町内会に加入し地域の情報を得るとともに、事業所からも広報誌を配布して情報提供している。近所の方や家族から野菜や果物、お菓子の差し入れがある。散歩時には、近隣住民の方々との会話を楽しむなど、今出来る範囲で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの感染対策の為、会議として集まることをストップしているので意見をいただけていない。	自治会長や民生児童委員、消防団、地域包括支援センター、家族が委員となり、2ヵ月毎に書面での会議を行っている。活動状況や利用者の状況等を報告し、意見や要望を伺う用紙を添付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き状況等を話し合い情報提供してもらうこともある。	地域包括支援センターの職員は、運営推進委員会の委員となっており、入居希望者の状況や事故対応等について電話や直接会って相談できる関係となっている。町担当課の職員とは、顔なじみとなっており、手続等相談し、生活保護担当者とは電話で相談することが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の話し合いを3カ月に一回メンバーを変えて行っている。	指針を作成し、3ヵ月毎に合同会議の終了後に委員会と研修会を開催している。全盲の方が1名入居しており、転倒予防のため本人、家族の了解のもとにセンサーを利用している。スピーチロックの防止に向けて気づいた時にはお互いに注意し合うように心掛けている。夜間は、防犯のため施錠している。	

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まだ学ぶ時間を取れていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強できる時間が取れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約後、不明な点を訪ねても良いことを伝えている。 不足と思われる点も今年追加している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を頂けることが今のところないです。	計画作成担当者が計画内容を家族に説明する際には、意見・要望を確認するよう努めている。また、年に2回8ページの広報を家族に配布するとともに、利用者ごとに写真を送付している。家族から感謝の言葉が多いが、「入浴が好きなので、もう少し入れてほしい」「転倒に注意しながら散歩させてほしい」との要望があり、少しでも添えるように努めている。	コロナ禍で面会に制限があるなか、家族への情報提供の充実が求められる。広報誌等は、簡単に作成できるよう工夫して発行回数を増やして直近の利用者の状況を伝えながら、意見や要望をいただけるよう取り組むことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議や個人面談で行っている。 日々の改善点はすぐ話し合っている。	社長と管理者、スタッフとは年3回面談を行っており、一人一人の個人目標の達成状況を確認するとともに、職員の意向の把握に努めている。月1回の合同会議で意見交換し、仕事に関することや台車等の備品の購入についての要望が多い。台車については、購入予定となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し給与を決定する話だったが自分は上がっておらず向上心が上がらない。		

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の機会確保が難しい(人力的な問題)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	極力務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのように困っているか分からない事があるが出来るだけ努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ある程度努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ある程度努めている。		

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それなりに努めている。	ドライブで自宅や古くなった家の周辺を巡るなど、馴染みの場所との関係が途切れないように努めている。また、利用者同士が近所の方で馴染みの関係にあることから、両ユニット合同で行われる運動会やクリスマス会、敬老会等の行事の時にも交流できるよう努めている。訪問理容師が定期的に訪れ、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	極力努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ある程度検討している。	言葉で思いや意向を表現できる利用者がA棟4人、B棟2人ほどで、他の利用者は仕草や表情から意向の把握に努めている。本人本位というものの、気まま、我儘な利用者もあり、声掛けなどに工夫しながらの支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	不足している分努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が行っている。 合同会議でモニタリングを行い適切に対応している。	基本的には、6ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。課題の抽出は、介護支援専門員が行っており、モニタリングは合同会議において全職員が共有しながら行っている。医師や看護師からの助言や家族の意向等も計画に反映させている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ある程度活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	思うように取り組めていないことがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	取られる情報を取り入れ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療によりホームにていろいろ相談できるので利用者様も安心だと思う。	協力病院から月3回の訪問診療を受け、看護師は健康観察のため毎週来所している。状態が変化した時などには、看護師が来所し対応している。かかりつけ医や専門医を受診する際には、職員対応が多く、一部、家族が行っている。精神科への通院など、町外への通院も事業所が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護させて頂くなかで日々の気づきを看護師ノートに書かせていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者とケアマネで対応し行っている。		

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることは家族には説明できている。	入居時に看取りを行っていないことを利用者や家族に説明している。介護度が3になった場合には、特別養護老人ホームへの申し込みを促している。入浴時に浴槽を跨げない、立位が困難になる等の重度化が顕在化してきた場合には、再度家族に説明のうえ関係機関に相談している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員はどうかわからない。	避難訓練は6月に実施しており、11月に再度実施予定である。地域の避難場所になっており、3名の防災士が中心となって災害対策を行っている。職員が近くに住んでおり通報後すぐに対応できる体制となっている。食料やストーブ等の備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応を行わせて頂いています。	利用者の尊厳を守ることに努め、排泄の失敗もトイレ内や隣の浴室で対応するよう配慮している。接遇研修を通じ否定する言葉を使わないよう努め、呼びかけについても「さん付け」で呼ぶようにし、親しさと馴れ馴れしさが別であることを意識して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを聞くよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ない時もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があれば散髪に来てもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きを手伝ってくださったり食事後食器拭きやお椀拭きをお話しながら笑いながら利用者様と職員が一緒に行っています。	A棟では、利用者の状況を踏まえ調理や後片付けは職員が行い、B棟では利用者がテーブルや食器を拭く等のできる事を職員と一緒にやっている。利用者の状態に応じて、食材の大きさやとろみをつける等を行っている。地域の方や家族から差し入れていただいた野菜や果物を使って調理し、利用者に喜ばれている。また、敬老会や誕生日会等の行事食についても利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が不足がちな利用者様に対しては水補の時間以外でも様子を見ながら摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	過度な支援にならない様出来ていないところのみ手を貸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の出来る利用者様、またほぼ失禁している利用者様であってもトイレで排泄していただいている。	夜間に起きない利用者や失禁の多い利用者があり、A棟1人、B棟2人がオムツを利用している。排泄は自立している利用者が、A棟7人、B棟5人いるが、全員がリハビリパンツとパットを利用している。全盲の利用者が1人おり、見守り支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、予防は模索中である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	集団生活のため個人の希望に合わせるのは困難である。	週2回1人20～30分の入浴を基本としている。リフト浴が無いため複数の職員で対応する場合もある。夏場はシャワー浴も行っている。水虫の利用者には、毎日足浴を行っている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安を与えないよう安らかな気持ちになるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染症など制限がある中出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症など対策の上、低リスクのところのみ出かけている。	コロナ禍での制限はあるが、早坂高原や九戸方面へドライブに出かけている。自宅を見たいなどの希望にも出来るだけ対応している。利用者は、天気の良い日には事業所周辺の散歩に出かけたり、テラスでの日光浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立にて金銭を使える様には行っているが、新型コロナ感染対策のため買い物に出掛ける機会がなくなった		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援出来るよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの詰まりの原因を考え生活感季節感が無いため工夫が必要である。	建物全体がエアコンにより温度管理され、ホールにはテーブルと椅子、テレビ、ソファーが配置され、快適な環境となっている。A棟は、食事が終わるとほとんどの利用者が部屋に戻って好きなことをしており、一方、B棟の利用者は、ホールに残りテレビを見たり、会話を楽しんでいる。利用者が折り紙等で作成したひまわりや赤とんぼなどの季節の作品を掲示し、居心地の良い空間となっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々席替えなど取り入れて工夫できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に懐かしい写真など飾られている。	居室は、エアコンで温度管理されベッドやチェストが配置された居室には、テレビや衣装ケース、家族の写真などの馴染みの物が持ち込まれている。日中、居室で過ごす利用者も多く、過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう努めている。		